飛騨農林事務所の普及活動状況（令和８年８月末現在）

今月の重点活動

■アグリパーク・アグリパーク構想の推進と飛騨産農産物の魅力発信

県のアグリパーク構想は、気軽に農業を体験し、楽しみながらノウハウを学べるスタートアップの「場」を設け、多様な主体・形の農業参画を促進することとしている。

８月18日には重点推進モデル設置主体である、飛騨市、飛騨高山宮川朝市協同組合、飛騨農業協同組合との合同による中間検討会が開催され、これまでの取組状況や課題等について意見交換を行った。

また、農政部が運営するＳＮＳ「ぎふアグリサーチ（@agpa_marche_gifu）」では、重点推進モデル設置主体の活動の様子や、飛騨地域の農産物（トマト、ホウレンソウ、宿儺のめぐみ、宿儺かぼちゃ、メロン、小玉スイカ）を紹介し、消費者に向けた情報発信を行った。９月16日に開催される県庁マルシェでは、旬を迎えた飛騨産農産物の販売が予定されており、ＳＮＳでの情報発信と連動した販売促進につなげていく。







【活動の様子と農産物PR】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■メロン・第 42 回飛騨メロン共進会が開催

８月７日、飛騨メロンの規模拡大と技術向上を目的として、第42回飛騨メロン共進会が開催された。本年度は11名の生産者が出品し、６名の審査員が食味やネットの美しさ、全体のバランス等を厳密に審査した。

少雨と猛暑が続く厳しい気候の中、丹精込めて栽培されたメロンは、審査委員長（飛騨農林事務所長）から「いずれも逸品揃いだった」と講評があり、生産者の栽培技術の高さがうかがえた。

翌８日にはバロー高山店で即売会が開催された。試食のほか、うちわの配布やアンケートを実施して交流を図った。来場者からは「飛騨メロン」を初めて知ったという声も多く聞かれ、甘くておいしいと好評で、家庭用や贈答用として買い求められていた。

農業普及課では、今後もメロンの栽培技術や、環境に配慮した防除体系等について情報提供を行い、生産者と共に飛騨メロンの品質維持・向上に向けた支援を続けていく。



【審査対象のメロン】



【表彰式の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲・採種ほ場の審査を実施

丹生川採種組合は飛騨地域のブランド品種である「たかやまもち」、酒米品種「ひだほまれ」をはじめ、県奨励品種「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」の水稲４品種の種子を生産し、県内生産者に供給している。

農業普及課は、良質な種子供給のため、７月下旬から８月下旬の計７回、採種組合員の協力のもと、ＪＡの営農指導員等とともに、異品種や雑草、病害虫被害等の有無について、採種ほ場の審査を実施した。

また８月27日には、９月から始まる収穫に向け、天候不良も予想されたことから、ＪＡと適期収穫にかかる説明を採種組合生産者に対して行った。

今後は、生産物審査として発芽試験等を実施し、優良な種子生産及び供給を支援してゆく。



【ほ場審査の様子】